



長野県民生児童委員だより

つなぐ

Vol.154

2024 Spring

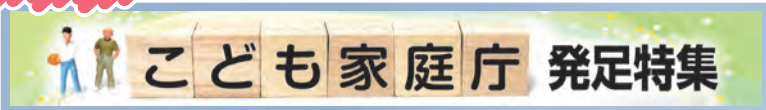
令和6年4月1日

発行人 長野県民生委員児童委員協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 荒深 たつ子

〒380-0936
長野市大字中御所字岡田98番地1
(長野県社会福祉協議会内)

特集取材



安曇野市コミュニティスクール事業の 現状と未来



Contents

- ◆ 特集
安曇野市コミュニティスクール事業の
現状と未来 2~5
- ◆ 民児協訪問
上田市中央地区民生委員・児童委員協議会 6
松本市入山辺地区民生児童委員協議会 7
- ◆ 民生委員・児童委員の日活動強化週間 8



安曇野市コミュニティスクール事業の現状と未来

学校が地域と力を合わせて、学校の運営に取り組む「コミュニティスクール（学校運営協議会制度）」は「こどもまんなか社会」実現の強力な味方です。安曇野市では学校運営協議会と地域学校協働活動の充実を一体的に進める安曇野市コミュニティスクール事業（以下、ACS）に取り組む、地域の一員として安曇野市の民生委員・児童委員、主任児童委員も参画し、活動しています。「堀金小学校」と「穂高西小学校」を訪ね、ACSの現状と未来についてうかがいました。



1 堀金村の時代から続く仕組みを核に地域一体で、子どものためにできることをする堀金地区の取り組み

堀金地区の取り組みの根幹は「教育関係者連絡会（以下連絡会）」にあります。隣接の三郷地区とともに村時代から綿々と続いているもので、園や学校の行事が重複しないように調整していた会議が、地域で子どもを守り育てる機能へと拡大したものと考えられています。連絡会を主催するのは公民館というのが特徴。館長として9年目に入った山田さんは「子どものために何ができるかの一点で動いている」と言います。そのため、大切なのは実効性。当初、教育関係者のみだったメンバーは「児童館も大事なので運営する社協からも」地域で活動する民生委員・児童委員、特に主任児童委員も「不登校の関係で図書館を居場所にするのでは」と図書館長もと、二ーズに合わせて膨らみます。毎月1回、朝9時から1時間、それぞれの現場から出る子どもに関わる課題を、組織に横串を指した柔軟さで解決へと導きます。コンパクトな時間で頻度高く開催することで、リアルタイムで課題に対応できるのです。また、学期ごとに一度は「地域学校協働本部連絡会」という多方面の関係者をつなぐ話し合いの場として位置付け「学校運営協議会」と連携・協働できる仕組みになっています。

「子どものために何ができるか」で動いている

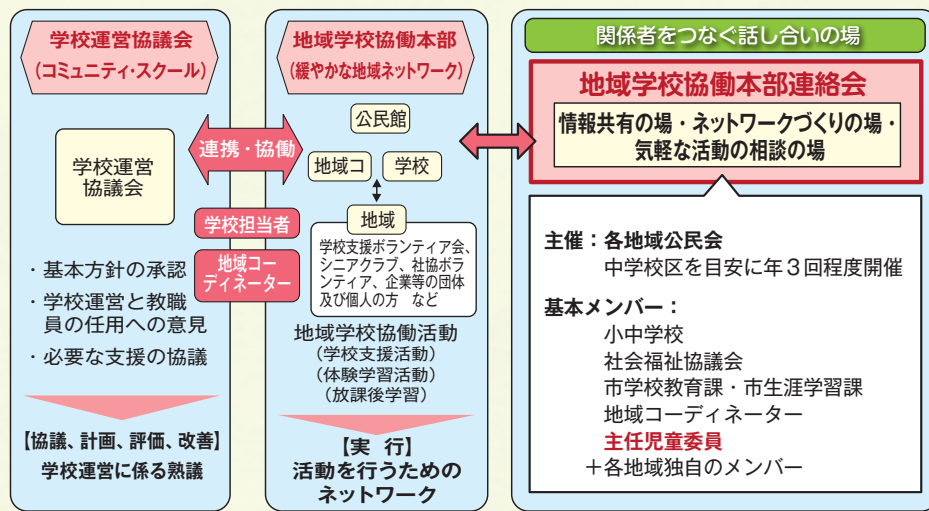
安曇野市堀金地区は、平成17（2005）年の合併前は堀金村でした。市の中央部、常念岳の東山麓に位置し、風光明媚な「安曇野」のイメージそのままの田園地帯が広がります。約9千人の人口にこども園、小学校、中学校が一つずつと、地域のまとまりを保ちやすい規模であることが実効性を高め、ACSを牽引し

（図参照）

地域とのつながりも薄くなり、学校や地域コーディネーターの相談先もない状態。連携・協働と言われてもどうしたらいいの？

まずは地域ネットワークをもつ関係者が集まって、情報共有などの話し合いや協力ができる場が必要

地域学校協働本部連絡会



小平伴紀さん（堀金小学校長）、宮島愛美さん（安曇野市教育委員会）、山田賢一さん（堀金公民館長）、千國朋子さん（社会福祉協議会）、青柳温男さん（主任児童委員）、宮澤純子さん（主任児童委員）から堀金地区の特徴をお聞きしました。

拾ヶ堰クリーン大作戦、引き渡し訓練の統合

多々ある連絡会の成果の中で、最近実を結んだものに「拾ヶ堰クリーン大作戦」という、小学校行事への地域住民の参加があります。(写真参照)

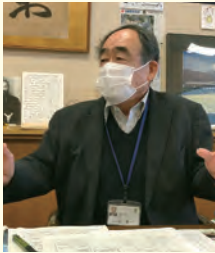
江戸時代に造られ「世界かんが



▲地域の人たちと小学校が協働した拾ヶ堰清掃の様子

い施設遺産」にも登録されている「拾ヶ堰」。環境を良くしようとして取り組む小学生の清掃作業が連絡会で取り上げられました。「汚しているのは大人。地域の宝を守るため一緒にやろう!」と地域住民に働きかけ、小学生と地域とが協働して清掃作業を実現しました。「学校だけではなく、地域の課題も見つけて行動につなげられた」と山田館長。ACSの発展形の見本のようです。

災害時に子どもたちを保護者に引き渡す訓練についても、「幼児から中学生までバラバラに行っているのでは災害時に混乱する」と課題にあらり、全体の動線を考えて一斉訓練とするよう改善されました。



山田 賢一 さん
(堀金公民館長)

堀金地区は規模的なまとまりやすさが背景にあります。村時代から代々館長の皆さんがやってきたことを続け、私の代になって特に子どもへの関わりが増えました。各地のコミュニティスクールの参考になればと思います。



▲堀金小学校校長室で日頃集まっている連絡会の皆さん

「地域とともに歩む学校」が子どもたちについても心地良い



小平 伴紀 さん
(堀金小学校長)

安曇野市全体でACSが立ち上がった2年。予算面でも活動がしやすくなりました。「おらほの学校」と、堀金地域の皆さんに愛され助けられています。前任は堀金中で、私にとっても愛着のある地域になっています。

「元々地域の方々の協力があり子どもとの距離が近い」と言うのは、堀金小の小平校長です。この距離の近さを制度化したのがACSともいえます。

生きる力になる。学力では測れない力も大切。誇りを持てるようになり郷土愛も育む」と、小平校長は期待を寄せています。

例えば、登下校の見守り地活動は以前からありましたが、学校運営協議会ができたことで、住民ボランティアの募集と調整が効率的にできるようになりました。地域の方々が小学1年生とおもちゃ作りなどで交流する「オープンキャンパス(朗人(老人)大学)」は、社協からの提案がきっかけで始まり、今年度は8回行われました。子ども達も地域で遊べるのでとても楽しみにしています。

こうして学校側は、文科省の推進する多様な主体による住民との協働を実践できるようになっていますが、ボランティア全体をまとめ子どもたちとつなぐ機会がありませんでした。そこで令和5年から「ボランティア全体会」を発足。誰が学校のどこでいつ何をするかを把握し、ボランティア側からの声も受けることで、より実情に合わせた態勢が整いました。また、全体会の際には、全校児童からボランティアの皆さんへ挨拶をし、お世話になっている方々への感謝の気持ちを伝えることができました。目指すのは「地域とともに歩む学校」で、「子どもたちも居心地がよくなるはず」と理想に向かって歩んでいます。

小学校の持久走大会での安全見守り、6年生の算数ボランティア、大豆の栽培から収穫と豆腐作り活動、放課後学習室などなど、多岐にわたり地域住民が学びの場に参画します。「子どもたちにとって

生きていく力になる。学力では測れない力も大切。誇りを持てるようになり郷土愛も育む」と、小平校長は期待を寄せています。

社協との協働は「オープンキャンパス」

「地域と学校に継続的に関わる事業をと考えていたとき、『毎月でもいい』と手を挙げてくれたのが堀金小」と語るのは、市社協の千國さんです。そこで「(朗人)老人(大学)オープンキャンパス」を毎月行うことになりました。大学参加者を中心に地域住民が1年生の特別活動で、仕事をしながら交流するものです。

「1年生に何ができて何ができないか、飽きずに楽しめるかの加減が分からず模索し調整しました」と千國さん。試しに住民側に工作内容を告知したところ、予習してくる人が出るなど回を重ねるごとに交流がスムーズで充実してきています。「敷居が高いという学校のイメージから、自由に行き来できる場所に」と千國さん。地域からの参加者は毎回約10人で、今年度も継続予定です。

組織横断のつなぎ役をしながら活動主体にも

堀金地域の仕組みの中で民生児童委員の役割と意義、実際に活動しての体験を、青柳さんと宮澤さんに語っていただきました。

互いの顔を知る信頼関係で子どもたちを見守る



宮澤 純子 さん
(主任児童委員)

連絡会で出た内容や対応を民生児童委員へ伝えていきます。拾ヶ堰クリーン作戦や学校ボランティアの募集、イベント参加の取りまとめなどに協力。コロナ禍にあつた連絡会で社協の「消毒ボランティア」募集があり自らも参加しました。学校とのつながりもでき、今はこども園から中学まで訪問。こども園から子どもたちの小学校生活について傾聴したり、中学では不登校などの問題にも関わったりしています。多方面からの課題を民生委員・児童委員につなげること、地区ごとに本気で子どもを見守ることができるようになります。顔を合わせた信頼関係を大切に活動が脈々と続いています。これこそが堀金の神髄だと思っています。

学校、社協との密接な連携が充実した見守りを実現



青柳 温男 さん
(主任児童委員)

顔の見える会議というものは重要で、連絡会は地域とつながることが我々の最も大事な役割だと考えています。

見守り隊の活動は男性だと「不審者に見られるのでは」という心配の声が上がり、連絡会で取り上げたところ、学校から「タスキを作りたい」との意見がありました。すると市社協から費用支援があるという具合に実現しました。

オープンキャンパスでは「じいちゃん、こっち来て」と1年生から呼ばれ、一緒に工作するのを、私自身も楽しんでいきます。

2

「西小応援団」の取り組み



松下 玲 さん
(穂高西小学校長)

穂高西小学校も地域に開かれています。昇降口正面にあるボランティアルームがそれを象徴しています。「西小応援団」として来校する地域住民と子どもたちの交流拠点です。松下玲さん(穂高西小学校長)、草間信一さん(同教頭)、笠原健市さん(民生委員・児童委員)、中山みあきさん(民生委員・児童委員)、宮田勝昭さん(民生委員・児童委員)、荒深たつ子さん(主任児童委員)にお話をうかがいました。

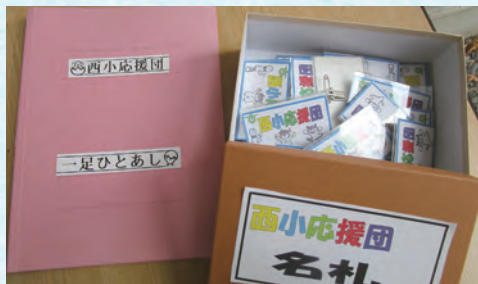
西小応援団とは？

ACSは「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」の両輪からなります。活動してくださる地域の方々は今令和5年度から「西小応援団」と呼ばれています。西小には伝統的に地域の方々からの応援があり、名前がついたことで活動しやすくなったかもしれません。読み聞かせや登下校の見守り、当校は樹木が多く落ち葉の時期には落ち葉掃きボランティアを以前からいただいていたきました。私は西小に赴任して3年ですが、当初から地域の方がよく足を運んでくださいます。私たちもその伝統を引き継ぎ、西小応援団の拠点スペースを気軽に訪れやすい場所に設置するなど工夫しています。

今日お集りの民生委員・児童委員の方々、西小のACSの中でのお立場としては、学校運営協議会では委員として、地域学校協働活動ではボランティアとして関わっていただいています。



▲ボランティアルームで、ボランティアメンバー（民生委員・児童委員、主任児童委員）と学校が協力！



▲ボランティアはバッジを付けて入ります

1年目はまずどうするかを模索、2年目から少しずつ具体化してきました。横の連携もでき新たな動きも生まれそうです。楽しみます。

へ来る雰囲気がありました。田植えから稲刈りまでお手伝いいただき、田んぼ応援団も、落ち葉掃き同様、長年続いている活動です。ところが協力してくれる方々の横のつながりがどうしても希薄なものでした。ACSをきっかけに今まで個人対学校だったのを「西小応援団」としてまとめ



草間 信一 さん
(穂高西小学校教頭)

私は西小に2年いいますが、赴任した時すでに地域の人が学校に

1年生の手助けを 民生委員・児童委員 が経験してみたら：

学校から西小応援団に大仕事の打診がありました。「学校生活に慣れない1年生の授業のお手伝い」です。そうはいつても何をすべきか分かりません。「授業中に不安そうにしている子たちにそれでいいんだよと側で声をかけてくださる役割をお願いしたかった」と草間教頭。それでも実際に教室に入るには勇気がいります。その時、学校運営協議会でもち上がったアイデアが、学校に行き慣れている人が体験した上で広げ

よつ、というものでした。名乗り出たのは学校運営協議会のメンバーを含む民生委員・児童委員でした。立場はあくまで一住民としてですが、守秘義務への理解、日頃の研修、活動実績などから参加しやすいはず。体験を語っていただきました。

ミシンボランティア にも発展

応援団として1年生の支



▲民生委員・児童委員の皆さん（左から笠原健市さん、中山みあきさん、宮田勝昭さん）

子どもの目線で寄り添い、活動が始まりました

教室に入るのは初めてで不安もありました。事前に先生から「子どもが廊下に出たとしても、教室に戻すのではなくて一緒に話してください」とアドバイスがあり、指導的役割でないことにほっとしました。実際、子どもたちはそれを感じ取って、2回目には飛びついてきてくれて、お役に立てたようで嬉しく思っています。

援は6月の2週間、有志が交代で午後の1時間行い、大きな成果がありました。不安そうにしていた1年生の表情が明るくなり、教室に来る応援団との距離がぐっと近くなりました。学校にとっても応援団にとっても意義のあるトライアルとなりました。

この流れで、5年生の家庭科授業でのミシンの支援要請にも応じ、参加者からは「機械の故障もあったり、アイロン掛けもあったり」と、先生一人に対応するのは大変だと思ったとの感想が。「学校と地域が頼む、頼まれる」の関係を超え、みんなで子どもたちのために動くことが大切。そのための場所が西小応援団の部屋。あそこに行けば誰かがいる、という安心感のある場所にしていきたい」と、松下校長の想いも高まっています。

ミシンボランティアの様子





上田市中心地区民生委員・児童委員協議会



▲前列中央が塩川会長と森副会長

長い介護経験を活かしたボランティア活動のネットワークと、自治会との連携強化がカギに

上田駅のお城口から北に広がる歴史ある商業エリアが中央地区。市街地空洞化の例にもれず人口も世帯数も減少傾向です。一人で家業を守っている人も少なくなく、民生委員・児童委員の中からも「店を閉めて(会議に)出るのが辛い」との声が上がります。今期の改選で10人中8人が新人になり、「二期目が私たちがただだから」と塩川博子さんが

会長を、森俊光さんが副会長を務めることに。でも「一期目はコロナで何もできなかったので、新人みたいなものです」。

上田市といえば、民生委員制度の産みの親ともいえる小河次郎の出身地として知られています。特に近年は女性委員が活躍しているのが特徴で、中央地区で男性は3人。「男の民生児童委員が受け入れてもらえるか心配だった」との感想も男性の委員から聞かれました。

塩川会長が民生委員・児童委員を引き受けたのは、長年の介護生活と、その影響からくる長い体調不良の時期があったからだといえます。自らと夫の親を、介護保険制度が充実してない時代に次々と介護。苦しい介護生活の中で色々な人に支えられ、助けられたことへの恩返しをしたかったといえます。また、その経験を活かして認知症への理解と支援を目的とした「オレンジカフェ」の設立と運営を担う立場から、培ったネットワークを役立てられると考えたからです。そんな塩川会長は定例会を



▲女性委員が圧倒的に多い上田市中心地区

「ここに来ればホッとできる、助けてとSOSを出せる場にした」と考えています。自身の介護生活の中で最も必要だったのがそんな場で、民生委員・児童委員にとっても同じだと感じるからです。もう一つの重点は「自治会との連携」。個人情報保護もあり、受け身でいるだけでは地域の実情も分かりません。森副会長は自治会の評議員を兼務し、塩川会長も自治会の役員を受けて連携を強めています。民生委員・児童委員に自治会長の妻たちがいるのも心強いといえます。どこまで介入していくのか分からないという見守り活動の不安の声を、会長と副会長が親身に聞く姿が印象的でした。



表紙写真紹介

春の白馬三山

長野市中条から小川村を經由して白馬につながる通称オリンピック道路沿いの公園、白馬村神城のサンサンパーク白馬から雄大な白馬三山を望みました。



表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしている方や民生児童委員の方々の地域の風景やお祭などの風物詩を撮った写真を募集します。

デジカメ等で撮った作品の電子データをCDRIに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。

詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

松本市入山辺地区民生児童委員協議会



▲後列左から2番目が朝倉会長

高齢化率や人口の数値では測れない良さを見つけ、今暮らす人が住みやすい地域づくりを目指す

江戸時代に甲府から移入されたというブドウ畑沿いが上がって行くと、定例会場の入山辺公民館があります。隣は廃校になった小学校のグラウンド。北アルプスの山並みを一望でき、そのまま山道を行くと美ヶ原高原の天辺へ。高原の西麓から頂上までを含む入山辺地区は、ほぼ95%が山林で東西に長く、標高差が大きく、冬季閉鎖の道路もありと、美と厳しさを併せ持っています。

一期目から会長になり、現在二期目の朝倉康直会長は「67歳の私は若いほう」と苦笑い。高齢化率が5割に迫り、団塊ジュニア世代が進学などで地区を出た平成時代、一気に減ったという人口は1800人弱。一方、ブドウを中心に農業従事者が多く、高齢でも生涯現役が大半という面もあり、朝倉会長が目指すのは「そういう人たちが住み続けられる地域づくり」です。

現在最も力を入れているのは「地域見守りマップ」の作成です。見守り対象者を住宅地図に一旦落とし込んでから白地図に転記、それを拡大コピーして貼り合わせた地図を定例会場の床に置き、全員で検討に入ります。「たまに来る人がいる家も空き家に含めるのか、そもそも空き家の定義は？」「住民票はないが実際には出入りがある場合は？」「一人暮らしのようで、完全にそうとばかりもいえないお宅は？」「一人暮らしのだが、住民票には子どもが入っている場合は？」など、社会の縮図のような指摘が次々と出されます。「この橋

一期目から会長になり、現在二期目の朝倉康直会長は「67歳の私は若いほう」と苦笑い。高齢化率が5割に迫り、団塊ジュニア世代が進学などで地区を出た平成時代、一気に減ったという人口は1800人弱。一方、ブドウを中心に農業従事者が多く、高齢でも生涯現役が大半という面もあり、朝倉会長が目指すのは「そういう人たちが住み続けられる地域づくり」です。

が落ちたらこの家は孤立する」との気づきも。

地域の実態を把握した上で、それにあつた活動をしていくための基本データとなるマップの完成予定は年内。地域を知る一環として入山辺見学ツアーの提案も出ています。「近隣のつながりの強い地域なのにコロナで切れてしまった。いかに復活させるかも課題」と朝倉会長。医療関係の職だったこともあり、地域課題には敏感でした。高齢化や人口の数値では測れない良さを見出すのも重要だと考え、就業中から会長を引き受けてきました。広い視野からの活動本番はこれからです。



▲熱心な議論で地域見守りマップ作成中

「民児協訪問」が動画になりました！

アナタの民児協を訪問し、スマホで動画に収めて編集、県民児連のホームページでご紹介します！

松本市入山辺地区民児協のご紹介動画

長野県松本市入山辺地

上田市中央地区民児協のご紹介動画

長野県上田市中央地区

※ 紹介動画は、スマートフォンによる上記のQRコードの読み取りのほか、長野県民児連ホームページ (<https://www.nsyakyo.or.jp/minjiren/>民児協の活動状況/) から視聴可能です。

5月12日(日)は「民生委員・児童委員の日」です。

《令和6年度「民生委員・児童委員の日」活動強化週間》

令和6年5月12日(日)から始まる「民生委員・児童委員の日活動強化週間」では、住民や関係機関・団体に民生委員・児童委員の存在や活動を知ってもらい、さらなる理解を得ることを目指しましょう。民生委員・児童委員の存在や活動について、地域住民の方々に周知を図り、理解を深めていただくことは、地域住民との関係づくりや日頃の見守り、相談活動等を円滑に進めることにつながります。

それぞれの地域でできる効果的な広報活動を考えましょう。

取り組みにあたって大事にしたい視点

①民生委員・児童委員を知ってもらいましょう。

民生委員・児童委員のことを「正しく知ってもらう」ことは、活動強化週間中の大きな目標です。たとえば、

○厚生労働大臣によって委嘱されたボランティアであること

○地域住民の身近な相談相手、専門機関へのつなぎ役であること

○法律上の守秘義務を有しており、安心して相談できる相手であること

これらはあまり知られていません。

②地域の福祉課題に関心を持ってもらいましょう。

取り組みとして、民生委員・児童委員だからこそ知っている地域の福祉課題を広く地域住民に伝え、地域全体で解決に取り組むことを呼び掛けましょう。

○誰も孤立しない地域をつくろう

○高齢者に優しいまちをつくろう

○まち全体で子どもたちを見守り、育てよう
といったスローガンを掲げることも考えられます。



主任児童委員のPR動画が公開されました！

全国民生委員児童委員連合会のホームページでは、主任児童委員制度創設30周年を迎える今年度、新たに主任児童委員を紹介するPR動画を制作・公開しています。YouTube形式でスマホやタブレット、パソコンから視聴することができます。定例会時、全員でご覧いただき、イベントなど地域の皆様への広報活動にお役立てください。

▶PR動画はこちらから

全国民生委員児童委員連合会ホームページ
<https://www2.shakyo.or.jp/zenminjiren/digitalsignage/>



▶音楽(ソング)はこちらから

長野県民生委員児童委員協議会連合会ホームページ
<https://www.nsyakyo.or.jp/minjiren/広報資料/>



令和六年元旦に、能登半島地震が発生しました。一日も早く復旧が進み、安心安全な生活が送れるようになることを心よりお祈り致します。

今号では、安曇野市堀金地区の公民館と穂高西小学校で、民生委員・児童委員、主任児童委員が参加して取り組まれている「地域学校協働活動」について取材を行いました。

堀金地区では、月に一回教育関係者連絡会が開かれ、地域の子どもは地域で育てる」というスローガンの元、課題を共有し合いながら活動につなげていることをお聞きしました。そこにおける主任児童委員は、定例会を通して民生委員・児童委員と連携を図り、子どもたちのために活動されていることに感銘を受けました。

また、穂高西小学校では、民生委員が、地域の一人として学校協働活動に参加し、子どもたちとの触れ合いの中から、温かな心の交流ができていることをお聞きしました。

「学校運営協議会」や「地域学校協働活動」は、地域の力を学校運営に活かし、地域コミュニティづくりを行うと共に、地域社会のみんなの力で子どもたちを育てることを目的に全国で実施されています。地域の一人として、地域と学校がつながる「地域学校協働活動」に目を向けてみませんか！

(荒深 たつ子)

広報委員
リレー日記

〈広報委員〉 荒深 たつ子(安曇野市)・池田 鐘三(佐久市)・林 みな(岡谷市)・唐木田 恵実子(千曲市)